



福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」の取組について
Alternative_Title	Efforts of Fukushima Prefectural Centre for Environmental Creation communication building "Commutan Fukushima"
Author(s)	五十嵐 俊則(福島県環境創造センター) Igarashi, Toshinori(Fukushima Prefectural Centre for Environmental Creation)
Citation	第 59 回アイソトープ・放射線研究発表会要旨集, p.21 The 59th Annual Meeting on Radioisotopes and Radiation Researches
Subject	セッション：リスクコミュニケーション 1 招待講演
Text Version	Publisher
URL	https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/251087
Right	© 2022 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第 59 回アイソトープ・放射線研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。



福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」の取組について

Efforts of Fukushima Prefectural Centre for Environmental Creation
Communication Building “Commutan Fukushima”

福島県環境創造センター*
五十嵐 俊則 (IGARASHI Toshinori)

1. はじめに

福島県環境創造センターは、原子力災害からの環境を回復し、県民が安心して生活できる環境の創造に向け、放射線等に関するモニタリングや調査研究、情報収集・発信、教育・研修・交流を行う総合的な拠点として整備された。その中で環境創造センター交流棟「コミュタン福島」は、放射線に関する正確な理解を促進し、また、福島県の現状を伝えることを目的とした展示室を備えた施設として、平成28年7月に開所した。これまでに、多くの学校団体の視察等の受入、イベント開催、アウトリーチ活動等を行ってきており、それらの状況について紹介する。



Fig.1 環境創造センター（三春）

2. コミュタン福島について

コミュタン福島は、放射線、原子力災害の記録、福島の復興の過程・現状、環境問題、再生可能エネルギー等について学べる体験型の展示室や学会、地域の会合などで広く活用できる会議室等を有した一般の方々が自由に訪れることができる入館無料の施設である。

展示室では、東北地方太平洋沖地震、それに続く原子力発電所事故から現在に至るまでのふくしまの歩みや原子力災害との闘いや復興へ向けた歩みを知る映像・年表、放射線のことを知り正しく判断するために、目に見えない放射線が飛んだ飛跡を確認できる「霧箱」や国内外の空間線量を比較することができる「放射線マップ」、福島の美しい自然や豊かな文化を大迫力の映像で体験できる全球型の「環境創造シアター」、地球上の様々な出来事に触れ、SDGs などについても学べるデジタル地球儀「触れる地球」など様々な展示物を有し、スタッフとの対話を重視した運営を行っている (Fig. 2)。



Fig. 2 展示室イメージパース

加えて展示による学習だけではなく、その学びを深く確実にしていくため、体験学習も重視しており、発達段階に応じたメニューを揃えている。また、研究員をはじめとする環境創造センター職員との対話や交流を図るイベント等も適時開催している。

3. コミュタン福島の利用実績等について

平成28年7月21日から令和3年12月28日までの総来館者数は437,286人となる。5～11月は、学校団体等の利用や多数のイベント開催などにより来館者が多く、冬季には来館者が少ない傾向となっている (Fig. 3)。

また、県内小学校の利用は、平成29年度～令和2年度について43～56%となり、県内の小学校の半数が、放射線教育等にコミュタン福島を活用している。

来館者を対象に実施しているアンケート結果を見ると、展示等の内容について多数が「理解できた」と回答しており、引率教諭からは、「普段、原発事故や放射線のことを考えることがあまりない子どもたちですが、改めて自分の身近な問題としてじっくりと考えることができました。」「震災時の記憶がない児童がほとんどで、福島で何が起こり、どう立ち向かって行ったかを伝える必要があると思う。」等のコメントをいただいている。

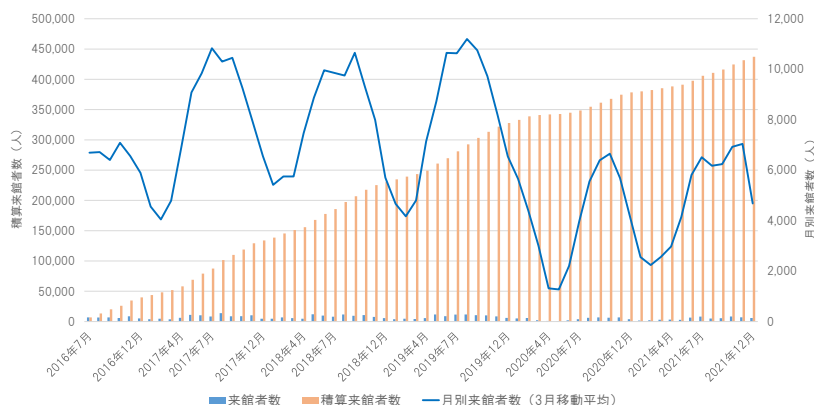


Fig. 3 コミュタン福島来館者数 (H28. 7. 21～R3. 12. 28)

* Fukushima Prefectural Centre for Environmental Creation